

暑かった夏を振り返って

特許庁技術懇話会 常任委員 小山 満

巻頭言



2004年という激動の1年も残すところあと1月となりましたが、皆様にとってこの1年は如何だったでしょうか。何と云っても今年の夏はいろいろと暑い年だったことを思います。そこで、暑く感じたできごとについて思い出してみたいと思います。

まず、近年世界の気温上昇についての問題がよく話題に上がりますが、今年の夏はそれを象徴するかのようによく、かつ、異常に暑かったことを思い出します。特に、7月20日には東京大手町で39.5度という観測史上最高の気温に達し、参考値ですが都内で42.7度を記録した地点もあったそうです。また、気温が30度以上の真夏日も東京で連続40日というこちらも観測史上最長の記録となりました。なお、年間の真夏日も70日を達成し、さらに記録を更新しました。このような暑さは今年限りと思いたいところですが、ヒートアイランド現象による温暖化の影響でしょうか、ここ20年間で真夏日の日数、熱帯夜の日数が倍増しているそうです。

また、今年はギリシャ・アテネにおいて第28回オリンピック競技大会が開催されました。連日連夜の日本の活躍が列島を駆けめぐり、熱く燃えたアテネからの中継に寝不足の日々を過ごした人々も多かったことと思われます。今回の大会は、メダル倍増計画が立てられて最初のオリンピックということで、とりわけメダルの獲得数にも注目が寄せられました。その注目に応えるかのように日本の大躍進によって、倍どころか倍以上のメダルが獲得されました。これは、日本選手団と共に日本中が「アテネの空に日の丸を」という目標に向かって一丸となった成果が今回の大躍進に結びついたものだと言われています。

さて、このように今年の夏は気象やオリンピックでたいへん熱くなる一方、知財行政においてはどうでしょうか。5月27日には本号の特集でもある「知的財産推進計画

2004」が知的財産戦略本部において策定されました。これは知的財産基本法に基づいて推進計画の見直しを行い、既存の施策の一層の具体化を行ったものです。特に、第2章では世界最高水準の迅速・的確な特許審査を実現するというタイトルで、中長期目標ということで具体的な数値目標を立てています。また、「特許審査の迅速化等のための特許法等の一部を改正する法律案」(特許審査迅速化法案)が2004年通常国会に提出されて成立し、6月4日に公布されました。それを受けて実施に向けた準備を鋭意進めているところです。さらには、知的財産推進計画の施策の一つである任期付審査官制度が導入され、本格的に開始された1年目である本年度は98名の任期付特許審査官(補)が採用されました。

このように、今年は知的財産立国の実現に向けて、計画から実施に移される大きな節目の年であったといえます。また、特許庁が急増する滞貨をかかえているという問題についても注目されました。このような状況において審査官は力を合わせてこれらの変化、問題に対して迅速かつ的確に対応する必要があります。アテネで活躍した日本選手団は、皆が同じ目標をもち一体となって頑張りました。私達も滞貨という山を乗り越えるために一丸となって取り組み、目標達成後の次の時代に向かって迅速かつ的確な審査を進めていけば、この問題を乗り越えられるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今年の夏はいろいろと暑かったという強い印象に加えて、少し振り返ってみることが、反省すべきこと、何か参考にすべきことの発見に、さらにはそれを達成するための新たな目標を見いだす機会につながるのではないかと思います。寒くなりつつある季節の変わり目に、この一年のできごとを思い出してみるのもいいのではないのでしょうか。